

## 5 高齢者の社会参加活動

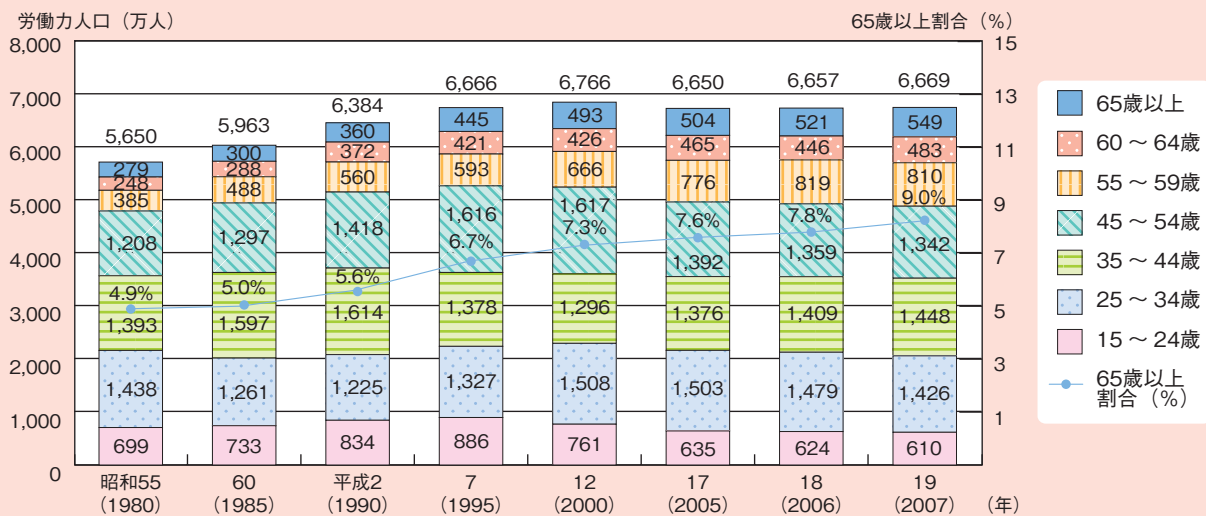
### (1) 活発になる高齢者の社会参加

#### ア 近所の人たちとの交流が弱まっている

60歳以上の高齢者の近所の人たちとの交流についてみると、「親しく付き合っている」は

52.0%、「あいさつをする程度」は40.9%となっている。過去の調査結果と比較すると、「親しくつきあっている」が減少する傾向がみられる一方で、「あいさつをする程度」、「付き合いはほとんどしていない」が増加しており、近所同士の結びつきが弱まっている(図1-2-51)。

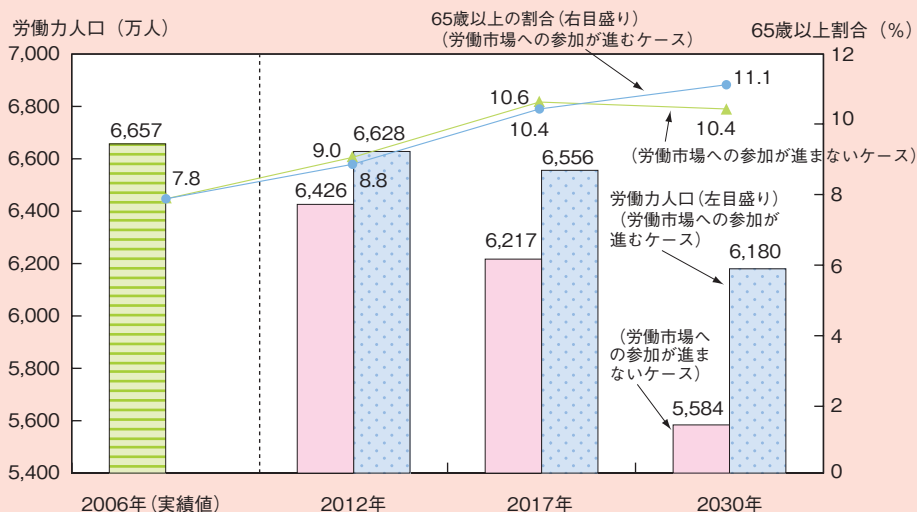
図1-2-49 労働力人口の推移



資料：総務省「労働力調査」

(注)「労働力人口」とは、15歳以上人口のうち、就業者と完全失業者を合わせたものをいう。

図1-2-50 労働力人口と労働力の見通し



資料出所：2006年は総務省統計局「労働力調査」、労働力人口の2012年以降は独立行政法人労働政策研究・研修機構「労働力需給の推計(2008年3月)」。ただし、労働力人口総数に占める65歳以上の労働力人口の割合については、独立行政法人労働政策研究・研修機構「労働力需給の推計(2008年3月)」を踏まえ、内閣府で試算したもの。

(注1)「労働市場への参加が進まないケース」とは、性・年齢別の労働率が2006年の実績と同じ水準で推移すると仮定したケース。

(注2)「労働市場への参加が進むケース」とは、各種の雇用施策を講ずることにより、若者、女性、高齢者等の方々の労働市場への参加が実現すると仮定したケース。

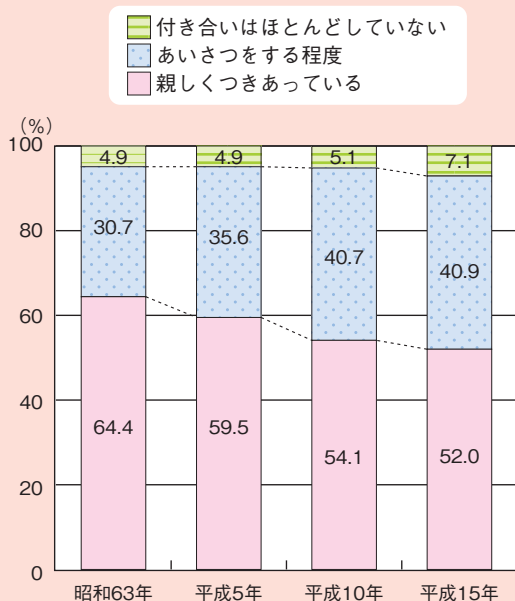
(注3)この推計においては、税・社会保障制度等の労働力需給に与える影響については必ずしも十分に考慮されていないが、こうした制度が変更されることによって労働力需給に大きな影響を及ぼす可能性があることに留意が必要。

## イ 高齢者のグループ活動への参加は増加しているものの、約半数にとどまる

60歳以上の高齢者のグループ活動への参加状況についてみると、54.8%が何らかのグループ活動に参加しており、10年前と比べて12.5%ポ

イント増加している。具体的な活動についてみると、「健康・スポーツ」25.3%、「趣味」24.8%、「地域行事」19.6%、「生活環境改善」9.1%の順となっており、いずれの活動も10年前と比べて増加している（図1-2-52）。

図1-2-51 近所の人たちとの交流



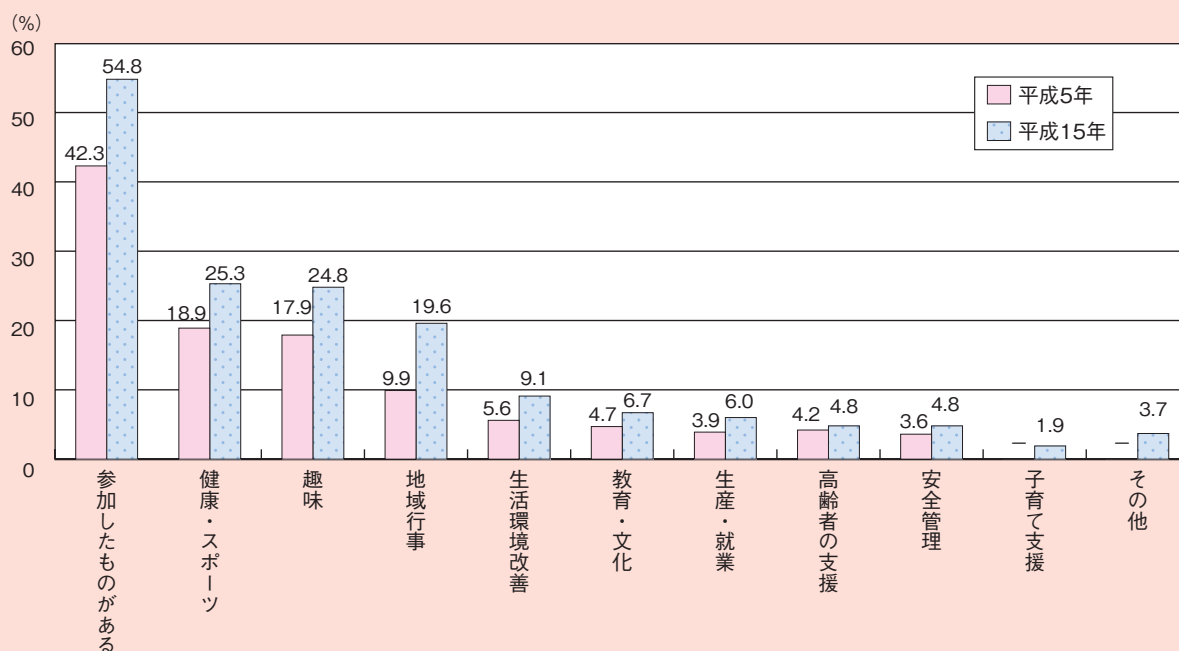
資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」（平成16年）

## ウ 社会参加活動のかぎは「一緒に活動する仲間がいること」

地域のための奉仕的な活動を行うにあたって、実際に活動するのに最も必要な条件は何か」では、「一緒に活動する仲間がいること」が40.3%と最も高く、「時間や期間にあまり拘束されないこと」16.2%、「活動場所が自宅からあまり離れていないこと」15.9%、「参加を呼びかける団体、世話役があること」13.0%となっている（図1-2-53）。

なお、内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」（平成16年）によると高齢者が参加する団体や組織としては、「町内会・自治会」（39.1%）、「趣味のサークル・団体」

図1-2-52 高齢者のグループ活動への参加状況（複数回答）



資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」（平成16年）  
 (注) 全国60歳以上の男女を対象とした調査結果

(22.0%)、「老人クラブ」(20.9%)などが多く、これに対し「ボランティア団体」(6.0%)、「シルバー人材センターなどの生産・就業組織」(1.9%)、「市民活動団体(NPO)」(1.7%)は少数にとどまっている(複数回答)。

### エ NPO 活動に対する関心は高いが、きっかけや情報の不足で実際に参加している人は少ない

地域の福祉や環境を改善することを目的としたNPO(市民活動団体)活動に関心があるかについてみると、「既に活動に参加している」が3.6%、「今後参加したいと思っている」が9.2%、「関心があるがよく分からない」が34.4%となっており、これらを合わせた「関心がある」が47.3%となっている。一方、「関心はない」が42.6%となっている(図1-2-54)。

NPO活動に参加しなかった理由についてみると、「きっかけや機会がない」が最も多く、「NPO活動に関する情報がない」との回答も

上位を占めている(図1-2-55)。

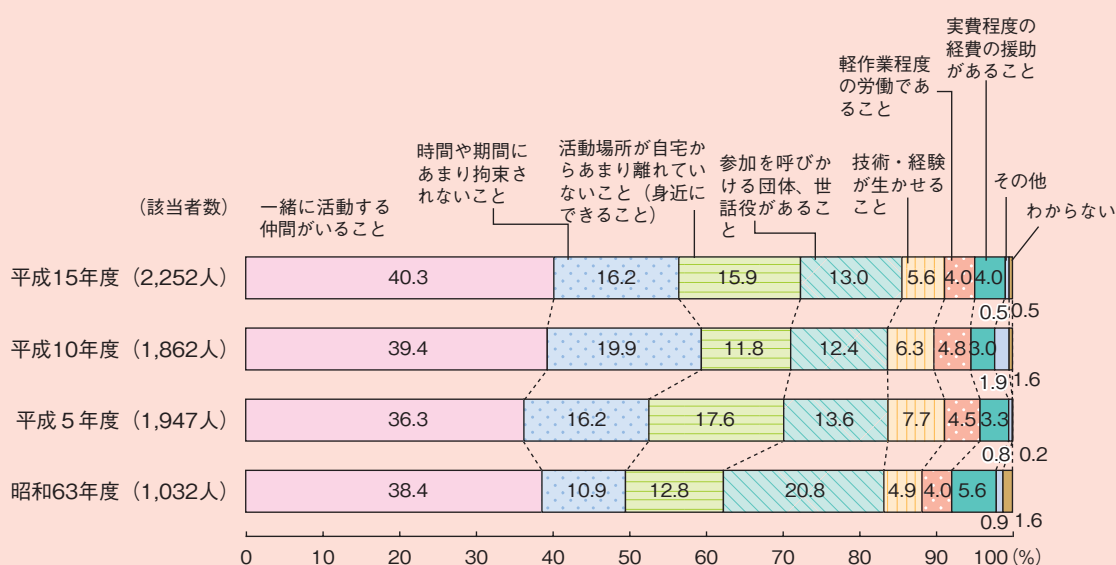
### オ 奉仕的な活動の報酬について、有償であつてよいと考える高齢者が増加

地域のための奉仕的な活動の報酬についての考え方をみると、「地域活動とはいえ、交通費などの実費ぐらひは受けてもよい」が45.1%と最も多く、「地域活動だから、謝礼や報酬などは受けるべきではない」が31.1%、「交通費などの実費に加えて、謝礼の意味で日当ぐらひの報酬は受けてもよい」が8.8%となっている(図1-2-56)。

### (2) 学習活動に参加している高齢者は2割程度

60歳以上の高齢者の学習活動への参加状況についてみると、何らかの学習活動に参加している者の割合は21.4%となっている。具体的な活動では、「カルチャーセンターなどの民間団体が行う学習活動」が10.6%、「公的機関が高齢者専用で設けている高齢者学級など」が5.5%

図1-2-53 地域のための奉仕的な活動を行うにあたって最も必要な条件



(「あなたが、地域のための奉仕的な活動を行うにあたって、実際に活動するのに必要な条件は何だと思われますか。次の中からいくつでも選んでください。」という質問項目で「必要なことがある」とした人に、「最も必要なことを1つお答えください。」とした質問に対する回答。)

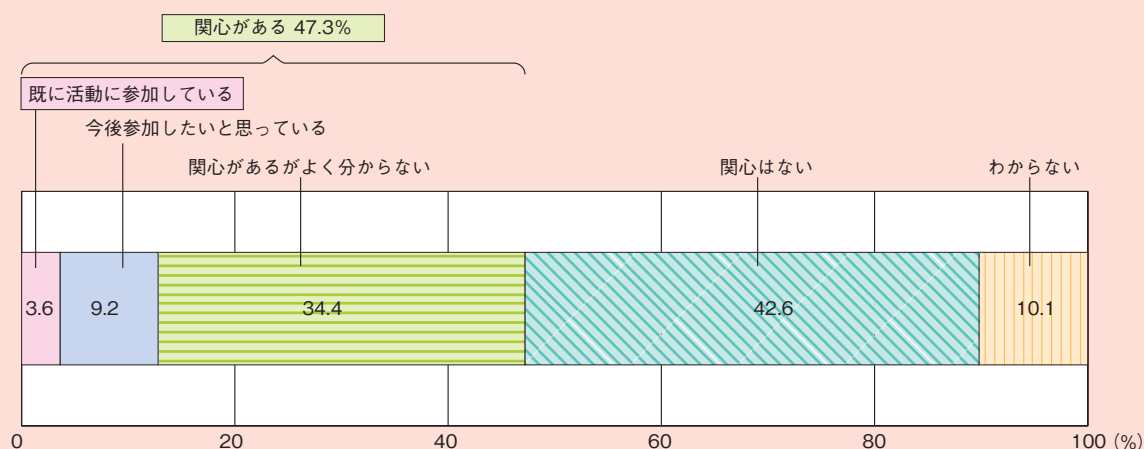
内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」(平成16年)

などとなっている（図1-2-57）。

また、学習活動に参加しなかった高齢者について、その理由をみると、「関心がない」（男性28.9%、女性25.1%）、「健康上の理由、体力に自信がない」（男性19.4%、女性31.1%）、「時間的・精神的ゆとりがない」（男性23.8%、女性18.4%）、「他にやりたいことがある」（男

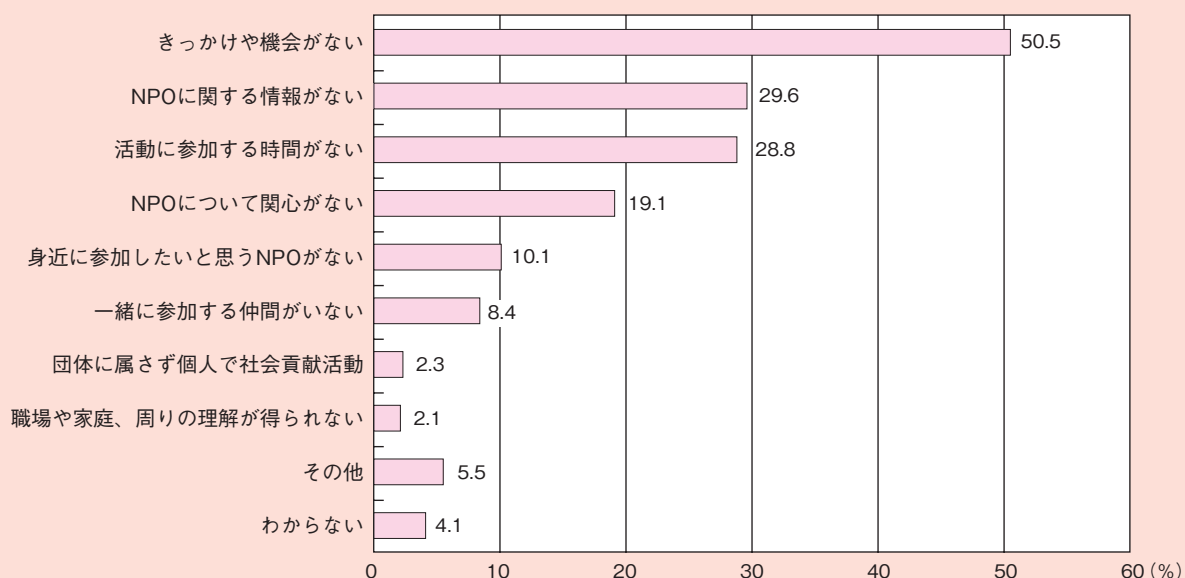
性14.9%、女性8.4%）などが上位を占めているが、「やりたい活動が見つからない」（男性9.8%、女性10.7%）、「適切な場が見つからない」（男性6.7%、女性8.1%）など、学習活動に参加する動機やきっかけがないことを理由としている者も見受けられる（図1-2-58）。

図1-2-54 NPO 活動への参加の有無



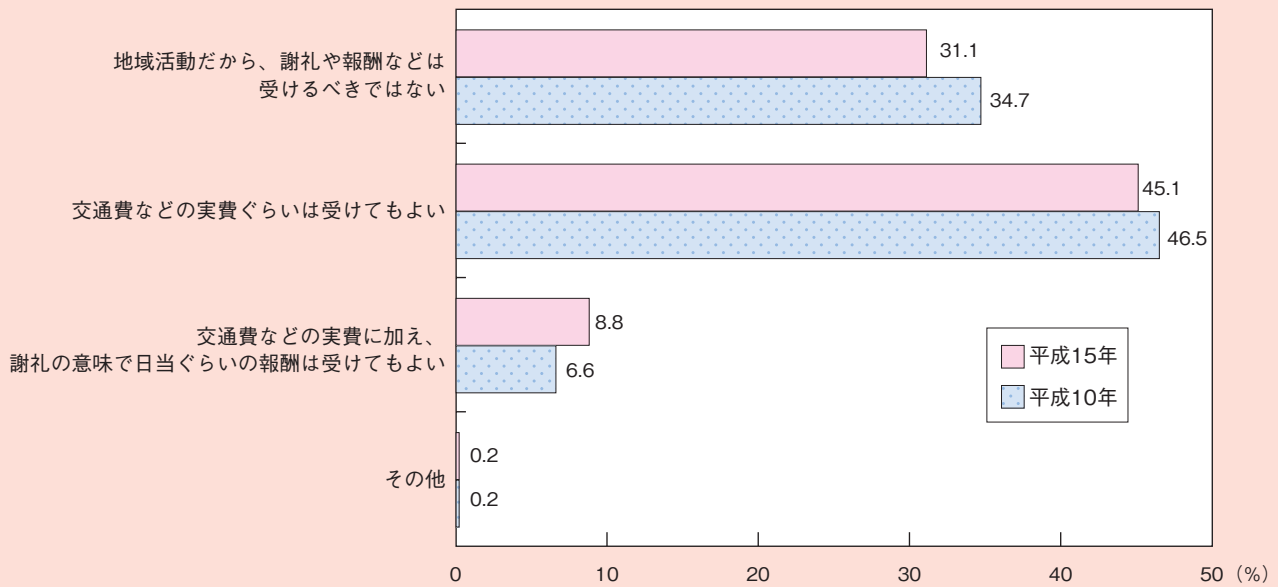
資料：内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」（平成16年）  
 （注）全国60歳以上の男女を対象とした調査結果

図1-2-55 NPO 活動に参加しなかった理由（複数回答）



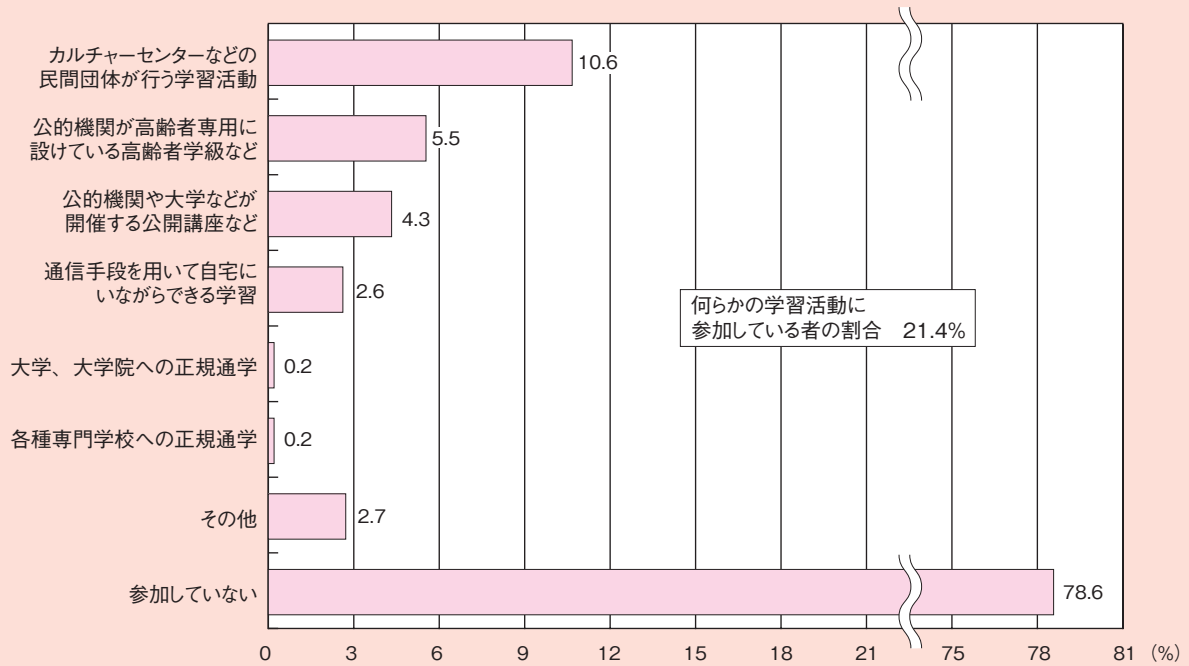
資料：内閣府「NPO（民間非営利組織）に関する世論調査」（平成17年）

図1-2-56 奉仕的な活動の報酬についての意識



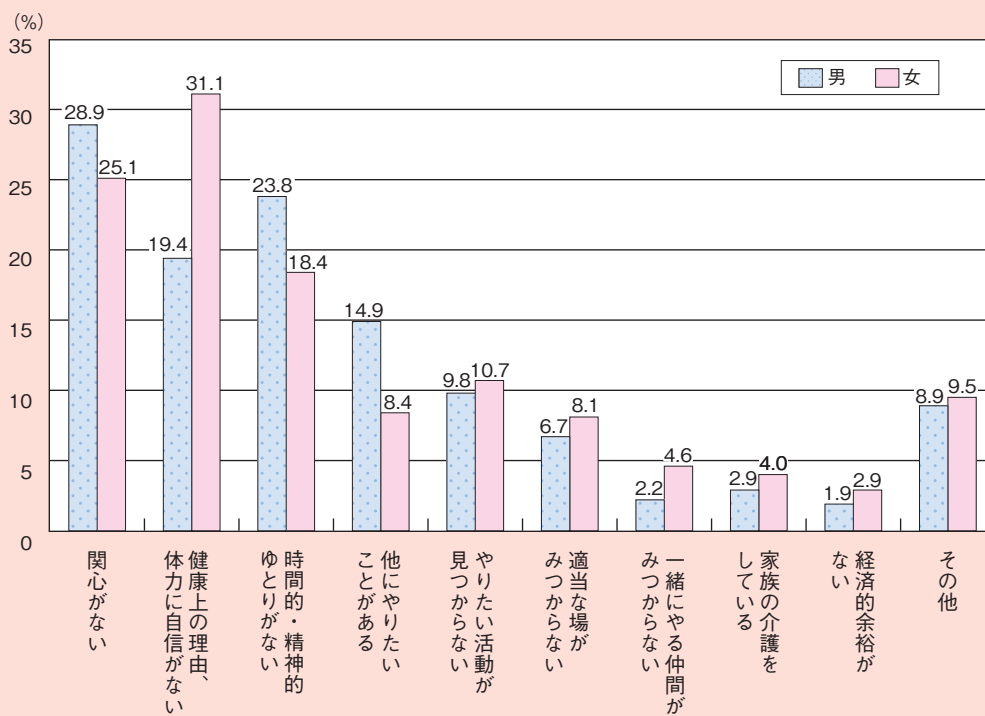
内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」(平成16年)

図1-2-57 高齢者の学習活動への参加状況(複数回答)



資料：内閣府「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」(平成18年)  
 (注) 全国60歳以上の男女を対象とした調査結果

図1-2-58 学習活動に参加しなかった理由（複数回答）



資料：内閣府「高齢者の生活と意識に関する国際比較調査」（平成18年）  
 （注）全国60歳以上の男女を対象とした調査結果

## コラム

### “地域デビュー”はお済みですか？

地域デビューは、子育て中のお母さんが子供を連れて公園で知り合いを作る「公園デビュー」にならって、親父版「公園デビュー」という意味で使われることもあるが、ここではより広義に年齢や、趣味、地域行事といった活動の内容を問わず、地域で行われている活動に初めて参加することを「地域デビュー」と考える。

地域デビューの状況を見てみると、「退職（隠居）してから」が30.7%と最も多く、次いで「子供が自立してから」(19.0%)、「子育てが終わってから」(14.3%)、「結婚してから」(12.6%)、「独身時代」(10.2%)、「子供を持ってから」(5.8%)となっている。

地域デビューのきっかけとしては、「友人、仲間のすすめ」が43.2%と最も多く、次いで「個人の意味で」(33.0%)、「自治会、町内会の呼びかけ」(22.8%)等の順である。

また、活動全体を通じて参加してよかったこととしては、半数以上が「新しい友人を得ることができた」(52.9%)、「生活に充実感ができた」(52.7%)と考えており、ほかにも「健康や体力に自信がついた」(35.1%)、「お互いに助け合うことができた」(30.8%)、「地域社会に貢献できた」(23.2%)等をあげている。

地域活動への参加意向については、半数以上が「参加したい」(「参加したい」と「参加したいが事情があって参加できない」の計)と考えている。ただし、近所づきあいをほとんどしていない人では約7割が「参加したくない」と回答している。

今後、人口規模700万人という「団塊の世代」が退職期を迎える。団塊の世代は都市化の象徴であるとともに、サラリーマン化の象徴でもある。団塊の世代の多くは、現役時代には生活の多くの時間を職場ですごしている。また、都市の特徴で地域とのつながりは必ずしも多くはなかったと考えられる。しかしながら、団塊の世代は、やる気もあり、地域貢献意欲も高い。団塊の世代の意欲・能力を最大限に活かすためにも、退職後にスムーズに地域デビューできる基盤づくりが必要である。同時に、現役時代から地域に関わることでスムーズな地域デビューが実現されると考えられる。

活動に初めて参加した時期							
独身時代	結婚してから	子供を持ってから	子育てが終わってから	子供が自立してから	退職(隠居)してから	その他	特にない
10.2	12.6	5.8	14.3	19.0	30.7	3.9	3.4

活動に参加したきっかけ（複数回答）							
友人、仲間のすすめ	個人の意味で	自治会、町内会の呼びかけ	活動団体の呼びかけ	家族のすすめ	市区町村の広報誌をみて	その他	特にない
43.2	33.0	22.8	8.0	7.5	6.6	2.2	2.6

活動を通じて参加してよかったこと（複数回答）								
新しい友人を得ることができた	生活に充実感ができた	健康や体力に自信がついた	お互いに助け合うことができた	地域社会に貢献できた	社会への見方が広がった	自分の技術、経験を生かすことができた	その他	特にない
52.9	52.7	35.1	30.8	23.2	21.1	17.1	0.5	3.9

地域活動への参加意向				
全体	参加したい	58.2	参加したくない	37.5
(近所づきあいの程度)				
親しくつきあっている	参加したい	66.0	参加したくない	30.4
あいさつをする程度	参加したい	54.6	参加したくない	40.8
付き合いはほとんどしていない	参加したい	21.5	参加したくない	70.6

内閣府「高齢者の地域社会への参加に関する意識調査結果」(平成16年)